

戦略的な留学生交流の推進に関する検討会とりまとめ（概要）

令和5年5月 文部科学省 戦略的な留学生交流の推進に関する検討会

I. 留学生交流の意義・目的

1. 留学生交流全体の意義・目的

- (1) 国際社会及び我が国の安定と平和への貢献
- (2) 我が国の高等教育の強化、国際教育・研究ネットワークへの参画
- (3) 大学を中核とした国際的に開かれた日本社会の実現

2. 外国人留学生受入れの意義・目的

- (1) 外交政策的目的 → 諸外国との相互理解の増進等
- (2) 大学の教育研究力の向上 → ダイバーシティの深化、国際頭脳循環への参画等
- (3) 高度外国人材の獲得 → イノベーションを推進する人材として活躍等

3. 日本人学生の留学の意義・目的

- (1) すべての留学 → 語学力・コミュニケーション能力向上、主体性・チャレンジ精神・公民意識の涵養等
- (2) 高等教育レベルの学修経験を伴う留学 (単位取得などの中期留学等) → 多様な文化的背景をもつ人々と協働する力や課題解決力、新たな価値を創造する力の育成
- (3) より高度で専門的なプログラムの履修を伴う留学 (大学院レベルでの留学、1年以上の長期留学、学位取得留学等) → 高度な専門性をもって新たな価値を創造する力、トップコミュニティを含むネットワークの構築

II. 地域・分野の戦略

分野戦略

①地球規模課題等、我が国が課題解決に主導的立場で取り組みたい分野
⇒ 環境、農学、工学、保健、社会科学

②科学技術の観点で、国際的な頭脳循環のネットワークへの参画が特に望まれる分野
⇒ 国家戦略等を踏まえ、バイオ、AI・情報、マテリアル、半導体、エネルギー、量子、通信、健康医療等
(我が国の科学技術政策の変化に応じて柔軟に対応)

③経済社会の構造変革や持続的成長、イノベーションの推進において特に振興が求められる分野
⇒ 文理融合、STEAM、工学、DX、情報科学
(これらの分野の受入れによりグローバル展開を視野に入れた日本発スタートアップの促進にも寄与)

地域戦略

東アジア	相互の観点を重視し、均衡性のある人的交流を通じた関係を維持。 <u>モンゴル</u> については地域の平和と安定、我が国の高等教育の多様性確保の観点で <u>留学生交流（特に受入れ）を推進</u> 。
東南アジア	世界経済を牽引する成長センターへ発展した地域。教育研究の観点でも、高等教育・研究のネットワークが強化され、存在感が増している。双方にとり最適となる関係構築を図りつつ <u>留学生交流を強化</u> 。
南西アジア	地政学的要衝で、多くの国が高い経済成長。 <u>特にインド</u> は優秀な理工系人材等を輩出する一方、我が国への留学生数は他の主要国と比べ少なく、 <u>受入れを抜本的に強化</u> 。
大洋州	戦略的な重要地域であり、豪・NZの主要大学は世界トップ水準の研究力を有し、大学間協定による交換留学の拡大など <u>留学生交流を促進</u> 。
北米	米国は我が国の外交・安全保障の基軸で相互の文化を理解する人材層の充実が不可欠。世界トップ水準の研究大学を有し、 <u>戦略的な大学間交流を軸とした交流の強化</u> が重要。カナダも世界トップ水準の研究大学を有し、スタートアップ・エコシステムも成熟。 <u>留学生交流の強化</u> が、産業界のコア人材獲得の強化やスタートアップ人材層の活性化に資することも期待。
中南米	外交的には国際場裡でも存在感を示すパートナーで、自由で開かれた国際秩序の維持・強化に向け連携すべき相手。世界最大の日系社会との連携強化や、我が国の高等教育における多様性確保の観点から、 <u>留学生交流を推進</u> 。
欧州	<u>EU加盟国を中心に</u> 、我が国と共有する普遍的価値を推進。 <u>頭脳循環の観点</u> 等から、質の高い留学生交流を強化。 <u>特にG7メンバー</u> である英、独、仏、伊は世界的に <u>教育研究力の高い大学を多く有し、留学生交流や大学間交流を強化</u> 。 <u>中・東欧地域、中央アジア・コーカサス地域も留学生交流を推進</u> 。
中東	世界のエネルギー事情や地政学的な変化の中、本地域の安定的発展への関与は、自由で開かれた国際秩序の追求のために不可欠。 <u>留学生交流を通じた一層の協力を推進</u> 。
アフリカ	経済成長率や今後の大きな成長可能性、人口構成、英語教育を受ける人材の割合等も踏まえ、我が国との関係を強化する上で <u>留学生交流の促進</u> は重要な役割。

※地域・分野等の特性に鑑み、特に言及すべき必要性の高いものについて明らかにする。明示的に重要性に言及しない地域・分野等も、多様性確保の観点で留学生交流の推進は重要。

※ロシア、ベラルーシについては、市民（若年層）との接点を維持し、我が国や世界に関する理解促進のため、留学生受入れは継続しつつ、今後の情勢の変化を踏まえ慎重に対応

III. 今後の施策の方向性

1 外国人留学生の受入れ

- 戦略性を持った留学生獲得の強化 (JASSOの情報収集・戦略立案機能の強化、我が国としての一元的なリクルーティング機能の強化、大学等の国際業務に高い専門性を持つアドミニストレータ職等の育成・活用、渡日前入試の推進等)
- 奨学金の充実(重点地域・分野の反映等)・運用改善
- 国内就職支援、日本語教育の充実
- 安全保障貿易管理・研究インテグリティの推進、適正な受入れと在籍管理の徹底 等

2 日本人学生の留学

- 学位取得型の留学や大学院レベルの交流の促進 (早期からの海外経験や英語力強化等により機運醸成、博士・修士を中心に学位取得留学の奨学金の拡充等)
- 高等教育レベルの学びを伴う単位取得等留学の促進 (中期以上の留学への奨学金の重点化、単位互換等大学間連携の推進等)
- 短期留学はその後の高度な留学や研究交流につながる観点から引き続き推進 等

3 大学の国際化

- 留学生支援体制の強化や国際通用性のある教育の展開 (外国語による授業、留学生と日本人学生が共に学ぶ授業の実施)等の取組支援
- G7やASEAN等の国・地域にある大学との互惠関係が維持されるための戦略的な支援 等